



2015年3月30日発行第 **563** 号

CONTENTS

上海街角インタビュー ㊦ ..... 2  
読後雑感：2015年 第8回 ..... 5  
【中国経済最新統計】 ..... 10



## 上海街角インタビュー ⑦③

社団法人大阪能率協会アジア・中国事業支援室副室長（海外委員）

順利包装集団董事（在上海）

福喜多技術士事務所所長

福喜多俊夫

### スマホなしで過ごせますか？

電車の中でも、歩きながらもスマートフォン（スマホ）を手放せない人が増えているが、中高年はまだガラケーのファンが多いようで、全体としてスマホの普及率は50%程度ようだ。しかし、上海ではスマホが無いと夜間や休日はタクシーに乗るのも難しい。タクシーアプリが大人気で走っているのは予約済の車ばかり、まったく住み難い世の中になってきたものだ。

さて、上海市民はスマホなしの生活が出来るのだろうか？

#### 1. 40歳代中頃の女性

スマホを持たなかったら、私は家にいるほかはありません。友達からの連絡は電話より微信（ウイチャット）の方が多いです。タクシーを呼ぶのにも、知らない土地でレストランを探すのも、車を運転するときのナビゲーションもスマホが頼りです。しかし、考えてみれば私の生活はスマホに支配されすぎている感じがします。事前の下調べや、段取りをすることが少なくなりました。これは文明の進歩なのでしょうか？

#### 2. 40歳代前半の男性

リアルタイムで友人や親戚と生活を共有できるのは楽しいです。また、趣味や仕事の成果を瞬時に自分のネットワークへ報告出来るのも楽しみです。スマホでネットにつなげば政策、法律法規、流行、業界の専門知識、重大ニュースを知ることが出来ます。最近、ますますスマホから離れられない日々となっています。これまで音信のなかった大学の同窓生や、遠いところに住む、滅多に会えない親戚とも顔を見ながら話が出来ます。

携帯での買い物も多くなっています。スマホは通信手段から生活全般の仲介者になってきました。私はもはやスマホなしの生活は考えられません。

#### 3. 70歳代中頃の女性

孫娘は新しい携帯が発売されると、すぐ新しいのに取り替えるので、私もお父りのスマホを持っています。でも、電話以外に使ったことはありません。

（中国では携帯電話を買って、自分でSIMカードを入れ替えるので、老人は新

しいもの好きの子や孫から古い携帯電話を貰うことが多い)

#### 4. 40 歳代前半の男性

携帯はいつも 2 つ持ち歩いています。仕事の電話は扱いやすい小さい携帯、ネットへの接続は大画面の iPhone プラスを使っています。一時期、電話も大型携帯でやっていましたが日常ポケットに入れているのは小さい方がいいです。

#### 5. 50 歳代前半の男性

上海も傾向は日本と同じだと思います。若い人はスマホ、年配者は普通の携帯だと思います。年配者でスマホを持っている人は、ファッション的な人か子供が新しいのに買い換えたので古いのを貰ったひとです。主流ではありません。

私ですか？スマホが無いと生活できません。支払のアリペー、理財商品の出し入れ、買い物、地図、微信、タクシーアプリなど非常に便利です。

#### 6. 40 歳代後半の男性

スマホは使い出したらやめられません。本当に便利です。今、使っていない人も、一度使えば止められなくなるでしょう。確かに中国でも 40 歳を境に、若い人は大部分スマホ、年配者は昔ながらの携帯が多いですが、スマホがないと世界が狭くなります。ビジネスマンにはスマホは必須です。

#### 7. 40 歳代中頃の女性

スマホは生活の一部です。微信は入力する必要がないからメールより楽です。電話ではないから手がふさがっている時は出なくてもいいから便利です。子どもの学校からの連絡もスマホに入ってきます。スマホが無いと親の仕事も務まりません。出張の多い主人と子供はスマホの画面を見ながら話をしています。

#### 8. 20 歳代前半の女性

友達とのコミュニケーション、レストランの予約、欲しいものの検索、写真、何でもスマホです。映画のチケットもスマホで予約します。1月に日本へ行ったときもスマホでホテル、レストラン、ショッピングの情報を得ました。スマホなしの生活は考えられません。

#### 9. 70 歳代前半の男性

化学品製造会社の顧問をやっています。サンプルの写真や工場の動画がスマホに入ってくるので手放せません。仕事の道具です。日常生活でも大いに活用しています。勿論、PC もタブレットも持っていて使い分けています。

#### 10. 20 歳代中頃の男性

小米（シャオミ）のスマホです。iPad プラスが欲しいけれど高いので小米でまんしています。お金が溜まったら iPad プラスを買います。画面が大きいのでとても魅力的です。スマホは生活のありとあらゆる場面で使います。電話より微信でのやり取りの方が多いです。ネットショッピングも殆どスマホで注文します。

### 1 1. 20 歳代後半の女性

書類を作るなど一部の仕事で PC を利用する以外、仕事の連絡、友達とのやりとり、買い物、ほとんどのことはスマホでやれます。ただ、家族全員がスマホを持っていて、食事中もスマホを見ているので会話が減りましたね。そうですね、友達との食事でもスマホを見ている時間が増えました。これはよくないですね。

### 1 2. 30 歳代前半の女性

携帯電話は二つ持っています。仕事用の普通の携帯と私用のスマホです。普通の携帯は待ち受け時間が長いし、素早く電話を掛けられるし、テキストメッセージも簡単に送れます。仕事用には普通の携帯電話がいいです。スマホは通勤途中の電車の中で音楽を聞いたり、ニュースを見たりします。家ではカメラが大活躍です。スマホの電池が切れてイライラする人がいますが、私は本もバッグに入れてあります。スマホに頼り過ぎないようにしていますが、スマホは確かに便利です。だんだんスマホ依存症になってきます。

Financial Times の調査では、中国の 18~30 歳人口約 2.7 億人のうち 92% がスマホを持っているとのこと。中国人にとって今やスマホは完全に生活の一部に取り込まれているようだ。小学生以下の若年層とリタイヤして世の中とのつながりをそれほど重視しなくてもいい高齢者を除けば、中国人にとってスマホは生活の道具となっている。また、中国ではスマホで IM（インスタントメッセージャー）は使うが、メールアドレスは持っていないという人が結構多い。中国では iPhone のような高級機種から小米（シャオミー）のようなかなり高機能で低価格帯の機種が普及しており、スマホの購入に抵抗感がないようだ。

以上

---

## 読後雑感：2015年 第8回

---

27. MAR. 15

アジア・アパレルものづくりネットワーク代表理事

株式会社小島衣料オーナー

東アジアセンター外部研究員

小島正憲

1. 「原発輸出の欺瞞」
2. 「“平和のプロ”日本は“戦争のプロ”ベトナムに学べ」
3. 「中小企業よ、今こそベトナムへ」
4. 「死を思えば生が見える」
5. 「坐禅断食」

### 1. 「原発輸出の欺瞞」 伊藤正子／吉井美知子共著 明石書店 2015年2月16日

副題：「日本とベトナム、“友好”関係の舞台裏」

本書は、私が今まで数多く紹介してきた ASEAN・南西アジアの政治や歴史、経済に関するものではない。日本がベトナムへ輸出しようとしている原発に関する告発の書である。執筆者の一人である満田夏花氏は、第一章で、「筆者は、3.11以降、市民団体の一員として、原発事故の被害者の方たちとともに、被災者支援政策に取り組んできた。多くの被災者の方々の悩み、失われた生きがい、分断を見るにつけ、日本が輸出すべきなのは、このような不条理を生む原発ではなく、大量生産・大量消費のエネルギー構造に異存しないで済む技術や価値観ではないかと考えている」と書いている。まさにこれは正論である。

また伊藤正子氏は、「ベトナムにとって、日本は金を出すが口は出さない、つまり長期にわたり ODA の最多供与国でありながら、人権抑圧に対してまったく非難しない、やはりとても都合の良い国である。最近では、領土紛争など、中国をめぐる問題でも日越は利害を共有しており、中国と同様の人権侵害がベトナムで行われていても、日本では非難どころか言及も報道もされない。そこには批判し合わない“もたれあい”の構造が出来上がっている。このような“良好”な日越関係の中で、日本からの原発輸出が強力に推進されようとしている。端的にいえば、日本政府は、ベトナムの情報統制や言論・集会の自由の制限など非民主的状況に目をつむったまま、反対運動などが起こらないのをよいことに、自国内では見込めなくなった技術の維持を図り、一部企業のための経済的利益を目指し、アメリカの安全保障政策に追随して原発を輸出しようとしているわけであり、他の国に輸出するよりいちだと倫理性を欠き罪深い」と主張している。これにも、私は同感である。

ベトナム側では、反対署名運動も起こっており、その辺りの事情を、「幾多の脅かしにもめげず、集まった 626 名の署名入り請願書がハノイの日本大使館と日本政府に送付さ

れた。そこでは、日本による原発建設支援を、“無責任”“非人道的”“不道德”と批判していた。日本政府からの返答はなかったが、国策に反対すると逮捕・拘禁の恐れもあるベトナムの政治状況の下、実名で 626 名もの人が署名したことの意味は非常に重い。署名者のなかには、のちに公安から警告を受けた人もいた」と書いている。なお、本書では、ベトナムの原発建設予定地のニントゥアンにおける問題点を、①地元社会に与える影響、②ウミガメ産卵地の国立公園に隣接、③施行・運用技術の問題、④汚職腐敗とガバナンスの欠如、⑤津波対策が不明確、⑥周辺人口の多さと避難計画の不確実性、⑦情報公開・市民参加の欠如、⑧不明確な使用済み燃料の処分方法、⑨周辺諸国の反対、などを上げている。中でも、⑤の津波対策について、この地は過去に 8m の津波が発生したとの記録があるとの指摘がある。

予定地の住民の受け止め方についても、「多くの村人は官製情報しか知ることができず、「国家が決定したのだから仕方がない」とあきらめる、あるいは情報が少ないので、「原発は安全」と信じる、のどちらかである。原発事故以前の 2010 年 7 月から 8 月にかけて、原発予定地の住民計 12 名が、日本の関連企業に招待されて福島原発などを見て歩いて、地元に戻ったのち“安全だ”と宣伝しているため、多くの村人は深く考えていないようだ」と書いている。まさにこれは、住民の無知につけこんだ悪行なのではないか。

## 2. 「“平和のプロ”日本は“戦争のプロ”ベトナムに学べ」 大武健一郎著 毎日新聞社 2015 年 2 月 20 日 帯の言葉：「中国・米国に勝った小国の知略！」

珍妙な題名につられて、この本を購入して読んでみたが、中身は通俗的なものであり、新説・珍説を含めて深く学ぶべき点は少なかった。それでもベトナム初心者向けの紹介本と考えれば、読む価値はあるかと思う。大武氏は本書の「はじめに」で、「我々日本人は、中国や韓国の歴史、西欧の歴史は学んでいるが、なぜか ASEAN の国々の歴史をほとんど知らない。しかし、ベトナムなどのアジアの国は日本の歴史を勉強しており、我々が気づかないいろいろな見解を日本史についても持っている。さらに、日本人の気づかない日本人の優れた点、逆に修正すべき点なども知っている。この本を通して、日本が 21 世紀に活用すべき日本人の特質について考えていただきたい」と書いているが、すでに多くの識者のベトナム紹介本によって言い古されていることが多く、傾聴に値するものは少ない。ただしファン・ボイ・チャウの「東遊運動」についての記述は、参考になる。

大武氏はベトナム人の見解として、「ベトナム人は何でも中国悪者論を展開します。やはりベトナムは千年中国と戦ってきた国です。そのため“靖国については、心の問題としてはよくわかるから、一人一人が心の中でお祈りすればいいじゃないか。むしろそれについて揚げ足を取られるようなことをやって、アメリカとの間に亀裂が生じたらまずい。やはりこれからの日本は、軍事大国になれるわけではないのだから、アメリカの後ろ盾を大切にすべきだ」というのが、彼らの意見です」、「竹島・独島問題は、ベトナム人に言わせれば、ロシアと英国、ソ連とアメリカの狭間で韓国も日本も利用されて主張しているだけであり、こんなことでもめるのはばかばかしい話だということになります」と書いているが、大方のベトナム人がこのような見方をしているかどうかは、定かではないと、私は思う。

さらに大武氏は、「日本人の家族の絆が薄いことが、ベトナム人には信じられないよう

です。ベトナムでは3世代同居が一般的です。祖母が孫を育てます。そして、成長した孫が祖父母の面倒を見ます。日本のような老老介護にはなりません」と書いているが、日本も半世紀前までは、3世代同居が一般的だったことを思えば、やがてベトナムもその道を辿ると私は思う。また「ベトナムと日本は、バクチ好きという点で似ています」と書いているが、私はベトナムの方がはるかにバクチ好きだと思う。それはカンボジアとの国境沿いにカジノが林立しており、ベトナム人の金持ちがこぞってそこに遊びに行っている様子を見れば、はっきりわかる。「ベトナムをはじめ、アジアで賄賂のない国はありません。良い賄賂に関しては本当は手数料と位置づけ、一定の処理をして全部上集める方がよいでしょう。例えば、バングラデシュではそのように処理されるようになりつつあるようです」と書いているが、私は、バングラデシュでそのような処理方法が進められているということを見聞したことがない。

### 3. 「中小企業よ、今こそベトナムへ」 榎本俊洋著 ダイヤモンド社 2012年9月27日

副題：「初めての海外進出を成功に導くために必要なこと」

帯の言葉：「成長を続ける国で、もうひと勝負」

この本は2012年に発行されたものであり、少々賞味期限が切れているが、「中小企業よ、今こそベトナムへ」と檄を飛ばしていることに注目して、読んでみた。著者の榎本氏は日本で起業し成功をおさめた後、マレーシアやベトナムに転戦することになった。本書にはその榎本氏の苦労話や成功譚が満載である。なお、後半の1/3には日本の会社の海外進出前の苦労話がかかれており、若干、題名とはかけ離れている。

私は本文を読み進めているうちに、意外な個所に出会って驚いた。そこで榎本氏は、「会社設立三年目に訪れたチャンスが、当時運転が開始されたばかりの原子力発電所プラントにかかわる案件だった。国内有数の大手メーカー、石川島播磨重工業のプラント建設部門が、無線技術に詳しくて小回りの利く電気設備会社を探しているという。具体的な依頼内容は、福島第一原子力発電所に建設中の2号機で、中核部分の原子炉格納容器に据え付ける計測器設備工事や

調整、さらにはリークテストと呼ばれる最終段階の点検・検査作業だった」と書き、安全性の問題に関する社内の反対を、「当社の技術があるから原子力発電所でもっとも大切な安全が確保されている、と世間に言われるようになったらどうだろう。国の安全基準が守られているかどうか確認できないため、原子力発電所が運転できないとしたら、電気の供給が滞り、社会に与える影響は大きいに違いない」と説得し、この仕事を受注したと書いている。その結果、榎本氏の会社は原発関連の仕事の受注でかなり儲けたようだ。

この榎本氏が手掛けた福島第一原発は、2011年3月11日、東日本大震災の大津波で、1～3号機の全電源を喪失し、日本中を恐怖に陥れた。しかもすべてが安全な元の状態に戻るには、まだ数十年がかかると言われている。榎本氏が本書を書き上げたのは、2012年9月である。当然、自らが手掛けた設備が無力であったことを、目にしたはずである。残念ながら榎本氏は本書で、自らが関与し、それで儲けた原発が、日本に災禍をもたらしたことに対する反省の弁を、まったく語っていない。

#### 4. 「死を思えば生が見える」 山折哲雄著 PHP 研究所 2015年3月20日

本書は、日本を代表する宗教学者である山折哲雄氏が著したものであるが、私はこの本から深遠な死生観を学ぶことはできなかつた。山折氏は、「“生きる力”をつけるには、誰もがいつかは“死ぬ”という人間の根本的な問題を認識し、受け入れることが大事」と書いているが、その言葉は抽象的で、説得力を持たない。

山折氏は、「38歳のとき、学生諸君と飲んでいて急に倒れ、4か月ほど入院したんです。10日間くらい点滴のみで絶食状態におかれ、その飢餓感は地獄の苦しみでしたが、そのあと体が軽くなって、清澄感が甦ってきた。人間の体は、死に近づくとき反撥して甦る。その大病の体験が、私の転機になりました」と書いている。この感覚は、私も30歳代に、ヨガ断食を体験し、経験したことがある。私の場合は清澄感というよりも高揚感であったし、なによりも3度の食事をしないということで、時間に余裕がたっぷりできて、1日が36時間ほどあるというような奇妙な感覚になったことを覚えている。

また山折氏は、親鸞聖人の悪人正機説に関して、「親鸞自身が書いた“教行信証”には、父親を殺した阿闍世王が救われるには、二つの条件があると書いてある。その一つは、まず良き師、良き先生につくこと。それは阿闍世にとってはお釈迦さんだったわけです。もう一つは深く懺悔する。キリスト教的に言えば、悔い改めること。この二つの条件が備わるときに初めて、人殺しの阿闍世でも救われる。親鸞はそう考えていることがわかったんです。だんだんと私は、そういうふうには確信するに至ったわけです。そうなったときに、ああ、親鸞こそが、人間の根源的な悪、人殺しのような根源的な悪の問題を、正面から捉えて、自分なりの結論を出したんだなあ、と。こう思ったんです。ところが、この悪を問題にした親鸞の考え方というものを、その後の日本の歴史の中で採り上げ、問題にする人は一人もいなかったと思いますよ。その辺がまた不思議なんですね」と書いている。

#### 5. 「坐禅断食」 野口法蔵著 七つ森書館 2015年2月25日

副題:「直感力を養う」

帯の言葉:「直感力とは、ストレートに感じる力を使って、自然体でラクに生きられるようになることだ」

著者の野口氏はまえがきで、「断食は何のためにやるんですか、と聞かれることが多くなった」と書き、それに対して「やはり最初は肉体の健康のためであろう。次ぎに心の健康を取り戻すため。本当の最終は、ついに直感力を身に付けることが望ましい。直感力とは危機回避できる能力、つまり徳をそなえるということになる。または、だまっけていても危機が去っていく運をもつということである。そんな人は、いるだけで他人や社会までもがよくなっていくから不思議である。以上のように本当は、断食にはこのような段階をもった修養目的があり、深いものがあるのである」と答えている。

また野口氏は本書で、「人間でいちばん大事なことは直感的に生きることではないかと思ひます。病気になるのは直

感力が失われているためではないでしょうか。必ず体はメッセージを発信して、教えてくれているはずですよ。それに気づかなかつた、あるいはそういうものの声に気づかなかつた、聞けないというのは直感力がないからだと思います」と書いている。つまり野口氏は、「断食で病気は治る」と主張しているのである。私は、この野口氏の主張に従い、老人



は、病気になったら病院に行かず、断食道場に通うのも一つの大きな選択肢になると思う。老人が病院に行かないで病気が治れば医療費は大幅に節約できるし、病気が治らなくても断食往生という結末にも辿り着けるわけだから、一石三鳥でもある。したがって日本全土に断食道場を設立し、多くの老人を収容するのも、高齢社会の解決策の一つとなるであろう。

ただし野口氏は、「断食後にわかる変化は、食べ物の嗜好が変化することです。今まで好きだったものが嫌いになり、嫌いだったものが好きになったりします」と書いているが、私はこの野口氏の言を、鵜呑みにすることはできない。なぜなら私がヨガ断食を行った動機も、この食べ物の嗜好の変化を狙ったものだったからだ。その目的を達成することができなかったからである。私はまったく酒が飲めない体質だったので、それを改善し「酒が好きになるため」に一週間のヨガ断食に挑戦した。しかし結局、その目的を達成することはできず、いまだに酒は一滴も飲めない。

野口氏は本書で、他書には見られないことを書いている。そのいくつかを以下に紹介しておく。

- ・禅宗の修行のうち、もっとも重要視しているのは、体の動き方です。まずは掃除のときの動き方、そして坐禅はその合間に行うものという感覚です。坐禅は休憩時間にあたるため、修行中の僧はよく眠ってしまいます。

- ・「般若心経」には中に信仰のトーンがひとつも入っていません。しかし、前の気持ちから次の気持ちに切り替えるのに非常に都合がよく、うまく切り替えができます。そのため「般若心経」を自分のものとして使えるようになると、生活に非常に役に立ちます。わずか2分間のお経ですが、唱えているうちに自分の感度が下がり、愛を感じられるようになります。自分を大事にしなが、感受性を高めていくには、自分の感度を下げることが1日に1度は必要です。

- ・私の場合はまず、「ダライ・ラマが嫌いだな」と言われました。チベットに関して、ダライ・ラマのことを言われると、ちょっとつまずきます。「チベットの僧侶も嫌いだな」とも言いました。私は本音でそう思っていて、最近会う難民と称するチベットの僧侶たちは、あまりいい人に会いません。そういう僧侶は瞑想を教えると言いながら、難民に同情して金をくれ、みたいな人が多いのです。

以上

## 【中国経済最新統計】

	① 実質 GDP 増加率 (%)	② 工業付 加価値 増加率 (%)	③ 消費財 小売総 額増加 率(%)	④ 消費者 物価指 数上昇 率(%)	⑤ 都市固 定資産 投資増 加率 (%)	⑥ 貿易収 支 (億ドル)	⑦ 輸 出 増加率 (%)	⑧ 輸 入 増加率 (%)	⑨ 外国直 接投資 件数の 増加率 (%)	⑩ 外国直 接投資 金額増 加率 (%)	⑪ 貨幣供 給量増 加率 M2(%)	⑫ 人民元 貸出残 高増加 率(%)
2005年	10.4		12.9	1.8	27.2	1020	28.4	17.6	0.8	▲0.5	17.6	9.3
2006年	11.6		13.7	1.5	24.3	1775	27.2	19.9	▲5.7	4.5	15.7	15.7
2007年	13.0	18.5	16.8	4.8	25.8	2618	25.7	20.8	▲8.7	18.7	16.7	16.1
2008年	9.0	12.9	21.6	5.9	26.1	2955	17.2	18.5	▲27.4	23.6	17.8	15.9
2009年	9.1	11.0	15.5	▲0.7	31.0	1961	▲15.9	▲11.3	▲14.9	▲16.9	27.6	31.7
2010年	10.3	15.7	18.4	3.3	24.5	1831	31.3	38.7	16.9	17.4	19.7	19.8
2011年	9.2	13.9	17.1	5.4	24.0	1549	20.3	24.9	1.1	9.7	13.6	14.3
2012年	7.7	10.0	14.3	2.7	20.7	2303	7.9	4.3	▲10.1	▲3.7	13.8	15.0
2013年	7.7	9.7	11.4	2.6								14.1
1月				2.0	20.8	291	25.0	29.0	-12.4	-3.4	15.9	15.4
2月				3.2		153	21.7	-14.9	-35.6	6.3	15.2	15.1
3月	7.7	8.9	12.6	2.1	21.5	-9	10.0	14.2	-19.7	5.7	15.7	14.9
4月		9.3	12.8	2.4	19.8	182	14.6	16.6	13.9	0.4	16.1	14.9
5月		9.2	12.9	2.1	19.7	204	0.9	-0.1	-14.4	0.3	15.8	14.5
6月	7.5	8.9	13.3	2.7	19.9	271	-3.3	-0.9	-17.3	20.1	14.0	14.1
7月		9.7	13.2	2.7	20.2	178	5.1	10.8	1.2	24.1	14.5	14.3
8月		10.4	13.4	2.6	21.4	285	7.1	7.1	-11.7	0.6	14.7	14.1
9月	7.8	10.2	13.3	3.1	19.6	152	-0.4	7.4	-16.8	4.9	14.2	14.3
10月		10.3	13.3	3.2	19.2	311	5.6	7.5	-8.2	1.2	14.3	14.1
11月		10.0	13.7	3.0	17.6	338	12.7	5.4	-9.3	2.3	14.2	14.2
12月	7.7	9.7	13.6	2.5	17.2	256	4.3	8.6	-3.4	-42.6	13.6	14.1
2014年												
1月				2.5	19.8	319	10.5	10.8	-8.6	-4.5	13.2	14.3
2月				2.0		-230	-18.1	10.4	1.3	4.0	13.3	14.2
3月	7.4	8.8	12.2	2.4	17.3	77	-6.6	-11.3	6.1	-1.5	12.1	13.9
4月		8.7	11.9	1.8	16.6	185	0.8	0.7	0.5	3.4	13.2	13.7
5月		8.8	12.5	2.5	16.9	359	7.0	-1.7	8.4	-6.6	13.4	13.9
6月	7.5	9.2	12.4	2.3	17.9	316	7.2	5.5	10.3	0.2	14.7	14.0
7月		9.0	12.2	2.3	15.6	473	14.5	-1.5	14.0	-17.0	13.5	13.4
8月		6.9	11.9	2.0	13.3	498	9.4	-2.1	5.2	-14.0	12.8	13.3
9月	7.3	8.0	11.6	1.6	11.5	310	15.1	7.2	9.4	1.9	11.6	13.2
10月		7.7	11.5	1.6	13.9	454	11.6	4.6	8.7	1.3	12.1	13.2
11月		7.2	11.7	1.4	13.4	545	4.7	-6.7	-8.6	22.2	12.0	13.4
12月	7.3	7.9	11.9	1.5	12.6	496	9.5	-2.3	6.1	10.3	11.0	13.6
2015年												
1月				0.8		600	-3.3	-20.0	2.2	-1.1	10.6	14.3
2月				1.4		606	48.3	-20.8	49.8	0.1	11.1	14.7

- 注：1. ①「実質 GDP 増加率」は前年同期（四半期）比、その他の増加率はいずれも前年同月比である。  
2. 中国では、旧正月休みは年によって月が変わるため、1月と2月の前年同月比は比較できない場合があるので注意されたい。また、（ ）内の数字は1月から当該月までの合計の前年同期に対する増加率を示している。  
3. ③「消費財小売総額」は中国における「社会消費財小売総額」、④「消費者物価指数」は「住民消費価格指数」に対応している。⑤「都市固定資産投資」は全国総投資額の86%（2007年）を占めている。⑥—⑧はいずれもモノの貿易である。⑨と⑩は実施ベースである。

出所：①—⑤は国家统计局統計、⑥⑦⑧は海関統計、⑨⑩は商務部統計、⑪⑫は中国人民銀行統計による。